



発生動向等サーベイランス情報

百日咳にご注意ください！

県内、全国ともに、昨年を上回るペースで増加しています。



主に小児を中心に見られ、特有のけいれん性の激しい咳発作を特徴とします。乳児では重症化しやすく、特に生後6ヶ月以下では死に至ることもあります。

成人では激しい咳発作が見られない傾向にあるため、単なる咳として放置されやすく、重症化しやすい乳児にも感染が広がる危険性があるので注意が必要です。

★感染経路：接触感染、飛沫感染

★感染対策：ワクチン接種(五種混合ワクチン等)、手洗い等の一般的な感染対策

定点当たり報告数 トップ5 (R7.4.30現在)

1	感染性胃腸炎
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
3	伝染性紅斑
4	新型コロナウイルス感染症
5	インフルエンザ



◀百日咳とは
(栃木県HP)

感染対策のポイント

シリーズ11:高齢者でも百日咳？

「百日咳は子供の病気」と思われがちですが、最近の調査では百日咳の流行期には実は大人も多く感染していることが明らかになっています。日本では、百日咳ワクチンが定期接種の対象となっていますので、大部分の方は乳児～幼児期にワクチン接種による百日咳菌に対する免疫を獲得します。しかし年齢とともに徐々に効果は低下し、大人は百日咳にかかりやすい状態に戻っています。比較的健康な大人であれば、小児のように重症化することは稀であり、長引く風邪程度で済みますが、高齢者では気管支肺炎など重い病態に移行しやすいので注意が必要です。



感染症専門家からのアドバイス

百日咳は、咳が長引いて「百日咳かも？」と思った時期には、百日咳菌の量は減っていて、菌が出す毒素の影響で咳が長引いている状態に移行しています。感染対策の観点からは、菌量が多くうつりやすい発症直後のカタル期（鼻水、くしゃみ、のどの痛みなどの風邪症状）、それに続く咳の出始めの時期に診断を行い、抗菌薬治療をしっかりと受けることが重要となります。